

# トルク精密工業株式会社 【赤平市】

- ・代表者 代表取締役 高橋新作
- ・事業内容 金型、金属プレス、プラスチック成型加工による部品製造
- ・設立 昭和62年(1987年)
- ・資本金 4000万円
- ・従業員数 102名 (パート含む)
- ・住所 〒079-1264 赤平市茂尻旭町1丁目5番地
- ・電話番号 (0125) 32-5222
- ・FAX番号 (0125) 32-5362
- ・E-Mail tsukasa.jinbo@torc-p.co.jp
- ・URL <http://www.torc-p.co.jp/index.htm>

## 金型、金属プレス、プラスチック成型の本道唯一のトータル・コーディネイター

Made in Japan の刻印がある製品は、世界中から人気があります。もちろん、最先端の技術が投入された高機能もさることながら、それ以上に故障が少なく長持ちすることが高い評価を得ています。なぜ故障が少ないのでしょうか。それは部品一つ一つのディテールにこだわる日本人の勤勉性に由来するのではないのでしょうか。トルク精密工業は、部品づくりの基盤である金型製作、金属プレス、プラスチック射出成型のいずれも手掛け、トータルにコーディネートできる本道唯一の企業です。大手旅行バッグメーカーの部品を供給するため、神奈川県のとるく工業の赤平工場として設立されたのが起源ですが、今から20年前に分社独立して現社名となり、今では本道の地場企業としてこの地に深く根付き、赤平発で我が国のものづくりを支えています。

## 自動車から医療分野まで産業用パーツを幅広くアレンジする果敢なチャレンジャー

トルク精密工業をして、その名を広く知らしめたのが、電子レンジのマグネトロン(マイクロ波発生装置)部品の製造です。その実力は国内のトップシェアを誇ったことでも表れています。今ではどの家庭でも一台はあると思われる電子レンジは、ある意味、トルク精密工業の技術が支えていたとも言えるでしょう。しかしながら、時代は決して不動ではありません。日本のものづくり産業が次々と海外、特に東南アジアに工場を移転する中で、電子レンジの部品製造もこの例外ではありませんでした。同社が受注していたマグネトロンの製造も、タイの工場に移動してしまったのです。だが、トルク精密工業の真の強さは、実はここから始まったと言っても過言ではありません。この逆境をむしろチャンスに切り替え、これまでの技術の蓄積を生かして自動車部品の製造に活路を見出したのです。同社が開発した自動車のAT(オートマチック)スイッチ部品はハイクオリティが評価され、国内の自動車メーカーのすべてが採用するに至っています。生産を開始した2001年の年間10万個は、現在300万個まで生産量を伸ばし、業績が飛躍的にアップしています。さらに部品づくりのノウハウは医療関係にも生かされています。インフルエンザ検査キットや大腸癌検査キットの容器など、世界的なニーズに応える確かな技術で人間の生命をサポート、この分野でも特許を取得しています。

空知ビジネスサークル【そらび】会員の横顔  
代表取締役 高橋新作(たかはししんさく)さん



高橋さんにお会いしたとき、柔らかな物腰の中にも、逆境を乗り越えてきた、はがねのような芯の強さを感じました。

「人づくり、人に助けられ、また人をつくる」ことを経営哲学とされるリーダーは、また芯も強く、誰も付いて行きたくないものです。日本のものづくりが世界に通じるゆえんは、この【人づくり】から始めるからではないでしょうか。

経済環境の変化に対応し、果敢に挑戦している創業まもない企業や経営革新に取り組む企業を称えるため19年度から創設された【北海道チャレンジ企業表彰】の経営革新部門を受賞されたトルク精密工業。まさに【人づくり】によって逆境をチャンスに変えた高橋さんの芯の強さが、素晴らしい経営革新の成果をもたらしたのだと思います。

## 【ものづくりは人づくり】のモットーが逆境をチャンスに変える

逆境であったはずの急変をどうやって乗り越え、新たな分野に進出することができたのでしょうか。トルク精密工業では人材の育成を怠らず、むしろ経営の中心に置いていたからです。同社は、技術部門の社員に資格取得を推奨し、プロ集団の育成に全力を注いでいます。技術職のほとんどは、金属プレス加工技能士、射出成型加工技能士などの資格があり、顧客ニーズに最大限に応えられるようスキルアップを続け、そこに最新鋭の設備も加われば、鬼に金棒だったのです。確かに資格自体がすべてではありません。しかし、それを目指して勉強しようとする気概が大切なのだと思います。社員全員がチャレンジャー精神の持ち主がトルク精密工業の身上です。

